

Ⅲ 近代都市の発生と課題

3 8 イギリス産業革命の時代

2006/3/18

1 産業革命年表

1712 ニューコメン蒸気機関	1764 ハーグリーブス(多軸)紡績機 1779
1733 ジョンケイ、飛び機	1785 カートライト 力織機
1735 ダービー二世、コークス	1802 綿製品輸出 毛織物製品をしのぐ
1760 エンクロージャー ヨーマンの没落	1807 フルトン、蒸気船
1765 ワット 蒸気機関の改良	1814 スチーヴンソン 蒸気機関車を改良
1769 アークライト、水力紡績機	1830 マンチェスター・リバプール鉄道開通
1776 スミス《国富論》	1833 工場法 (12 時間労働、9 歳以下禁止)

2 イギリスの産業革命(1850)

	石炭消費量 (千トン)	鉄生産 (千トン)	原綿消費 (千トン)	鉄道延長 (km)
イギリス	38,000	2,400	260	10,000
ドイツ	4,000	250	60	4,000
フランス	6,000	400	10	3,000
アメリカ	6,000	500	120	15,000

3 産業革命のシクミ (農業革命⇒都市革命⇒産業革命⇒情報革命)

- 1) 技術革命 手の省略
- 2) 動力革命 力の省略
- 3) 交通革命 足の省略
- 4) 産業資本革命 金の力
- 5) 労働革命 労働の売買
- 6) 都市革命 ムラからマチ
- 7) 国際化革命 物・人・情報の無国境化

4 ヨーロッパ及びイギリス社会の変革——産業革命の背景

- 1) 宗教改革(1517 ルター) プロテスタント主義と資本主義(マックス・ウェーバー)
- 2) イギリス ピューリタン革命(1642) 名誉革命(1688) 権利宣言(1689)
- 3) 制海権 (アルマダ 1588, トラファルガーの海戦 1810)
- 4) 海外植民地(東インド会社設立 1650 実質的インド支配 1750)
- 5) アメリカの独立(1776)とフランス革命(1789)
- 6) レッセ・フェール 見えざる神の手(アダム・スミス)

5 イギリスは世界の工場

- 1) 生産力において
- 2) 機械生産において
- 3) 世界市場において